
井戸端だより

第51号

発行日：2005. 9. 27

発行：くらしの学習会



もくじ

ジャコウアゲハの絵はがき(8枚組)を作りました	1
ジャコウアゲハ重信川堤の生育地について	2
9月定例会 愛媛県紙産業研究センター見学	3
続・育児観察日記その1 「それは私です」	6
東温市満1歳	7
人類の行く末に警鐘を鳴らした女性達を思う	9
雑感	11
9月雑感	13
ペットフードから考えたこと	14
行ってみた中国	17
読者からのたより 今後の予定 編集後記	21

ジャコウアケハの
絵はがき(八枚組)を
作りました



丸三本店
重信店
でも

絵はがき売っております
 連絡先：くらしの学習会
 089-964-0387 089-964-6956

- ・一部350円(送料はサービス)
- ・支払い方法 郵便振込み
 01640-9-8335

くらしの学習会「蝶のくる庭」係
 振り込み用紙は郵便局にあります。
 (赤印刷の手数料加入者負担用紙を
 お使ください) また、
 絵はがきに同封することもできます。

重信川堤に、ちよつと変わった花の咲く
 ウマノスズクサという草がある。
 この葉の裏に、ジャコウアケハが卵を産む。
 卵からかえった幼虫は、ウマノスズクサだけを
 モリモリモリモリ食べて黒い美しい蝶になる。
 絶滅危惧種でもなく稀少種でもないが、
 年々減っていくのを見るのは淋しい。
 散歩に訪れる人も多いこの土手に、
 蝶やトンボやバッタにもこのままずっと
 住んでいて欲しい。

ジャコウアゲハ重信川堤の生育地について

国土交通省の重信川出張所の方が、ウマノズクサの生育地を3ヶ所教えてくださいました。しかも今年は、その場所だけ初夏の草刈りを見合わせておいていただきました。おかげでウマノズクサの生育状態がよくわかりました。草刈りをしなかった場所は、クズやイタドリなど大型の草がそのあたりを覆うように猛烈に育っていました。もちろん、ウマノズクサも大きく育っているし、ジャコウアゲハの幼虫もいました。草刈りをした場所でも1ヶ月もすれば少し遅れて育っていました。どうやら草刈りをほどほどにしているのがいいような気がします。

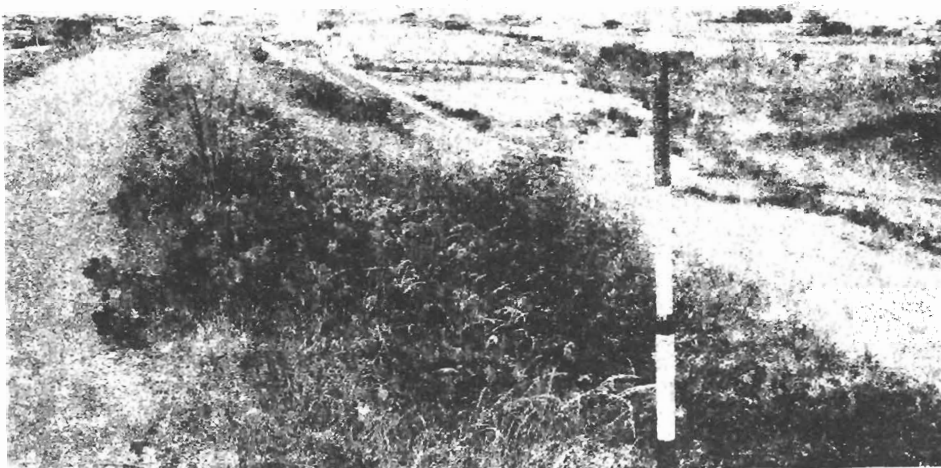
上村大橋あたりに比べてジャコウアゲハの幼虫の数は少ないような気がしましたが、サナギになるのに適した場所が少ないのかとも思います。が、それぞれの場所では他にも蝶やバッタやトンボなど何種類も飛んでいて楽しい思いをしました。今までは車で通り過ぎていた場所ですが、今回歩いてみて好きになりました。

(K・K)

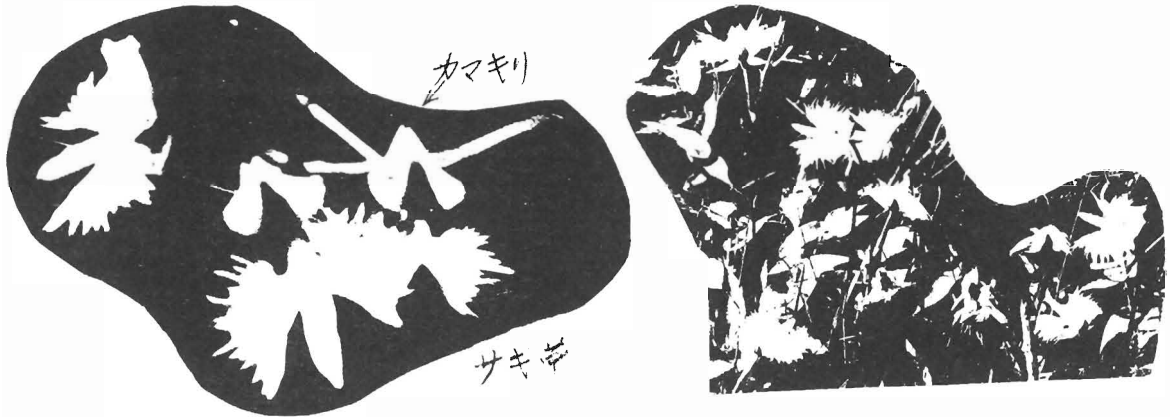
国土交通省がポールを立て、草刈を見合わせてくれていた場所。(5/29確認)

(重信川南側土手沿い3ヶ所)

- ★ 徳丸樋門東 30mの区間
- ★ 自転車道出合橋西 50mの区間
- ★ JR予讃線重信川鉄橋東 70mの区間



残暑厳しい9月3日(土)、2004年度4月・8月に予定していて、休館日だったり、台風だったりで行くことができなかった川之江方面(四国中央市)へ活動会員3人で出かけました。せっかく出かけるのだからと、今治のOさんから『今治・蛇越池湿地のサギ草』が見頃との情報に、まずはそちらへ。



国道196号線沿いの分かりやすい場所で、私たちが到着した10頃にはすでに20人ほどの見物の人々が来ていました。囲われた湿地の所々にまとまって真っ白なサギ草が可憐に咲いていました。鉢植えのもので見たことはあったのですが、自然の中でひっそりと咲いている光景は「一見の価値あり」といったところでしょうか。会報51号が発行される頃には、残念ながら時期は終わってしまっていると思いますが、来年のこの時期のお楽しみと言う事で(私は6~7月頃トキ草というピンク系の花も見てみたいなあと思っています)。ただ、人為的に持ち込まれたらしい、非在来植物が生育していて生態系への影響が懸念されるとの新聞記事に、保護に尽力されている方々のことを思うと胸が痛みます。この夏、子供達の間でカブトムシやクワガタムシの大ブームにより、海外から多くの昆虫が輸入され大売れしているらしいのですが、飽きて自然に捨てられたら、すでに交配種らしき昆虫が見つかっていると取扱業者がコメントしていました。ペットとして飼われているニシキヘビ・サソリが逃げ出したり、琵琶湖でピラニアが捕獲等のニュースを見る度、個人的嗜好を否定するつもりはありませんが、責任を持って扱って欲しいものです。20分程楽しみ、高速に乗り、次の目的地四国中央市へ。

三島川之江I.C.を下りて5分程の場所に、愛媛県紙産業研究センターがありました。完成して2年程らしいのですが、素敵なホテルのような立派な施設は、管理研究棟・研究交流棟・実験棟に分かれていて、頂いた資料によると、〈運営理念〉新しい時代に向けた県内紙産業の技術の高度化を支援して本県の紙産業の振興を図るとともに、小中学生の体験学習や社会人の生涯学習など県民の幅広い利用に供して紙全般に対する県民の理解と関心を深めます。

〈業務概要〉

1. 紙技術の試験研究 市場のニーズと企業のニーズに応じて、新しい技術の研究開発します。紙技術の研究開発・新加工技術の研究開発・自世代技術の研究開発・横断的研究体制
2. 紙産業の技術支援 技術者の養成（講演・講習・研修会）技術情報の提供・試験分析の実施（依頼試験）新鋭機器の開放（機器利用）技術相談・共同研究・試作品づくり・製品開発の受託研究・伝統技術の継承
3. 紙文化の普及啓発 手漉き・水引体験・紙の展示学習コーナー

となっています。私たちは主に研究交流棟（県内産材木使用）見学しました。

玄関ホール正面にある水引モニュメント昇龍（県下の水引職人と子供たち総勢1000名余りの県民が力を合わせて作成）が出迎えてくれました。受付の職員に案内をお願いし、昇龍に導かれるようにピカピカに磨かれた階段で2階へ。紙の展示学習コーナーでは、「ハチは知っていた／紙の起源」「紙のサイエンス」「美しさを与えられた紙」「愛媛の紙産業」「環境時代の紙」などのコーナーから紙に関するヒト・モノ・コトを分かりやすく紹介。機能紙や特殊紙、金唐紙や和紙人形、水引モニュメントなどの展示があります。和紙人形は1階にあり、和紙彫塑作家 内海清美の作品「赤星山の伝説」和紙だけで、これ程の作品を作り上げる技に圧倒されました。新宮にある「霧の森」内の「いまはむかしミュージアム」にも作品があるので、是非、見てみたいと思いました。案内の職員の方が説明上手で見学に時間をかけたので、手すき体験や水引き体験は出来ませんでした。もう一度みんなで来るチャンスを作って体験できればいいですね。

この後、紙のまち資料館へ。1階には、市内で生産されている各種紙製品の展示・即売室や不織布・機能紙コーナー。2階には、紙の生産工程がわかる展示室、紙漉きが体験できる紙漉き実習室、水引細工や絵などペーパークラフトの楽しめる学習室。3階は改装中でした。全体的にこぢんまりとした資料館でした。

展示物で特に興味を引いたのは、「井戸端便り32号」地図から消された島大久野島で製造された毒ガスを風船爆弾にしたのですが、その風船作りに使われた紙が展示されています。こんにゃく糊で紙を重ね付け風船作りをしたのは動員された女学生でした。

1階の即売所で紙製品を買って資料館を出たのはpm2時を過ぎていました。簡単な昼食をすませ、帰路につきました。

A. M

今治・県天然記念物の湿地

2005年9月1日

今治市



ヨツマタモウセンゴケ

ヨツマタモウセンゴケは繁殖力が旺盛で、すでに国内の温原でも生育が確認されている。蛇越池では今のところ数株程度だが、すべ近くに在来種のモウセンゴケ



ムシロ

蛇越池に非在来植物

ナギンソウとびらけ花植物の侵入が、県天然記念物に指定されている今治市孫兵衛(じゃこしい)湿地で、外来食虫植物のヨツマタモウセンゴケが、本来自生していないムシロと混生している。ヨツマタモウセンゴケは、繁殖力が旺盛で、すでに国内の温原でも生育が確認されている。蛇越池では今のところ数株程度だが、すべ近くに在来種のモウセンゴケ

人為的持ち込みか 生態系へ影響懸念

外来生物をめぐっては六月に「外来種被害防止法」が施行され、外来種の扱いが慎重を期す世論も高まっている。松山東雲短大の松井宏光教授(植物社会学)は「外来植物を個人で観賞するのは問題ないが、自然界に放すとブラックバスのような重大な環境破壊が懸念される。蛇越池は県内でもっとも優れた温原であり、早急に食害、根から除去する必要があり」と指摘している。

同湿地を管理している今治市教委文化振興課は「外来種の確認は初めてではないか。天然記念物として管理する上で不適切な植物であれば、除去などの対処を検討する」としている。

蛇越池湿地約五十坪には、県のレッドデータブックで絶滅危惧(きん)種のサギソウやイシモチソウなど約七十種の湿地植物が自生し、一九五〇年に県の天然記念物に指定されている。

今治・蛇越池湿地 2005年9月1日

非在来植物を除去

県の天然記念物に指定(け)湿地で、非在来植物が見つかかったことを受けて、今治市教委は七日、同植物の除去作業を実施した。

除去したのは外来種のヨツマタモウセンゴケ一株と、本来自生していないムシロ二株。湿地を管理する市教委文化振興課の職員が、根から取り除いた。植物は市緑の相談所(同市町谷)に持ち帰り、観察するという。

専門家は、二つの植物が人為的に移植された可能性が高いと指摘。ヨツマタモウセンゴケのすべ近くには、自生種のモウセンゴケが生育しており、交雑による遺伝子かく乱の恐れもあった。

同課は「たとえ悪意のない移植でも、生態系を乱すため、絶対に持ち込まないでほしい」と話している。

昨年4月から今年の3月まで、愛媛新聞の四季録を執筆してきました。自然のことをいろいろ書くつもりで引き受けたのですが、終わってみましたら、そのほとんどは妊娠や出産、育児にまつわるエピソードとなりました。しかしながら、妊娠も出産も、現在1歳11ヶ月になる息子の育児も、すべて自然観察そのものなので仕方がありません。

執筆を終えて半年、毎週の締め切りがないのはいいものですが、一方で息子の記録が残らない寂しさも感じています。そこで、くらしの学習会の紙面を借りて、続きを書かせていただこうかと思いつきました。息子が人になってしまっ、て、観察が面白くなるまでの間、お付き合いいただけましたら幸いです。

続・育児観察日記その1 「それは私です」

今年の10月、息子が2歳になります。赤ちゃんが笑い、言葉を理解し、身ぶり手ぶりで意思を伝えるようになる、動物の一種としてのヒトから、社会的存在としての人へ変化を感じるものですが、言葉を話すようになると、ますます人らしくなるものです。

息子も例外ではなく、「パパ」に始まり、「わんわん」、「バイバイ」、「どうぞー」、「だっこ」などと1歳5ヶ月の頃から今まで、話せる単語の数がどんどん増えています。最近では、「あれ?」、「え?」と疑問を表現したり、「ちわー(こんにちは)」、「みー(おやすみ)」などの挨拶も覚え、人らしさに磨きがかかってきました。

一方、ほほえましく見守るばかりではいられない場面もあります。

ある日のことです。息子の手をひき歩いていたら、足の動きに合わせて「いっしょ、いっしょ」と言うではありませんか。どうやら「よいしょ、よいしょ」と言っているつものようです。

その様子をおかしいなと思いつつ、私の頭の中には一つの疑問が生まれていました。どちらかと言えば子どもに似つかわしくない「よいしょ」という言葉をどこで覚えたのかという疑問です。息子は私とほとんど一緒にいるわけですから、彼の聞く音のほとんどを私も聞いているはずですが、あれこれと思いをめぐらせても、心当たりはありませんでした。

しばらくたったある日、また気になることが起こりました。遊んでいた息子が、不愉快そうに「もー!」と言ったのです。どうやら思い通りにならないことがあったようです。そのとき、ようやく私は、息子が自分の言葉をまねていたということに気がつきました。この「もー!」という言葉に、『もー』は牛の鳴き声でしょ」と母に注意された幼い頃を思い出したのです。

それからというもの、息子の言葉やしぐさから我が身をふり返る毎日を送っています。自分の無意識の行動が息子によって再現されるというのはあまり居心地の良いものではありませんから、私は今、息子と一緒に自分も育てているような気分です。

ところで、おいしいものを食べたときの「うまい!」、何かを拒否するときの「イヤイヤ」という言葉は保育園で覚えたようですから、おそらく私の責任ではありません。(T・S)

東温市満1歳

9月21日、総選挙後の特別国会では、第89代総理大臣が誕生し、第3次小泉内閣が発足した。

同時に東温市にとっても満1歳の誕生日である。また、この日は第4回東温市議会定例会一般質問の日。冒頭、高須賀市長は「小さくてもきらりと光る、住んでみたい、住んでよかったと言われる街づくりを今後も進めていきたい」と話された。平成の大合併で、愛媛県下70市町村が11市9町（松前町、松野町は合併なし）になった。11市の中で一番人口の少ない東温市であるが、総事業費542,361千円（うち町費分212,500千円）をかけた田窪地区区画整理補助事業の広大な土地には槌音が響き、瀟洒な住宅が次々と建ち、将来賑やかな街並が想像出来る。しかし、直ぐ近くの個人スーパーは賑わっているかというところではない。人口減少の傾向にある中、東温市はこの1年で130人増えたことは喜ばしい。合併により制度は変わったものの、私達の毎日の生活が変わったという実感はない。

そんな中、9月議会が気になり9月初め久々に東温市のホームページを開いてみた。議会情報にもくらしのカレンダーにも日程の記載がない。

9月13日初めてホームページに書きこみ（質問）をしてみた。「9月議会の日程を議会情報に掲載して下さい。くらしのカレンダーに何も掲載しないのはどういふことでしょうか」と。一週間後の9月20日に回答があった。「ホームページに関するお問い合わせについて、9月議会の日程については、東温市ホームページの総合案内の新着情報に掲載しておりますが（筆者注9/6記載）議会情報画面とは連動しておりません。ご質問のとおり、議会情報画面やくらしのカレンダーの方からも見るようにしていきたいと思っておりますので、今後ともお気付きの点がございましたらお知らせください。」と回答があった。東温市公式ホームページは枠組みだけ（形式）は出来ているが中身を充実して欲しい。一般市民の私達が市の情報を得る手段は、「広報とうおん」とホームページしかない。議会情報画面に議場の入り口に置いてある運営日程表と一般質問通告者一覧表（発言順位・発言者氏名・発言要旨）を事前に掲載して欲しい。また、9月のくらしのカレンダーにしても9月25日現在で（9月21日（水）さくらの湯平日入館料半額キャンペーンなど）4項目のみ。市民に知らせることがこんなに少ないのかとがっかりする。

さて、本会議。傍聴者は男性8名、女性6名。一般質問通告者は10名。3人の質疑応答が終り休憩に入った時に退席し、自宅でインターネット中継を見ることにした。11時過ぎに議会中継を見ようと試みたが「サーバーセッションの数が制限値を超えました」ということで画面が映らない。制限値を超えたというからには回線がふくそうしているということ、何人が見ているのだろう。後日、議会事務局へ制限値の数を確かめてみたところ5名ということだった。

午後からは再開の13:00にアクセスした。映った。用事をしながら耳を澄ましていた。総て終わったのは16:15。

くらしの学習会が進めている自然・環境保護に関することを、今回2人の議員が質問した。◎自然の中で育てる環境問題については、「上林森林公園が新しい公園になり、風穴やそうめん流しなど多くの観光客が訪れた。この地区には蝶のアサギマダラが多く見られ、また、県の天然記念物に指定されたが今では見られなくなったベニモンカラスジミの生息地でもあり、豊かな自然の中で生物が生き延びる環境を」と。◎昆虫の保護区の設置については、「かすみの森公園の土手にはウマノズクサを食草とするジャコウアゲハが生息している。この地域を管理している国交省と連携し管理は市民、看板は国交省など行政と市民の手で群落を守り蝶の飛ぶ環境を作って欲しい」と。これに対する答弁は「ジャコウアゲハは都市部にも広がり、絶滅危惧種でも稀少種でもないので保護区の設置はむずかしい」と。「生息していると言ってもそんなに多くは無い。環境教育の面からも考慮し、現場を見ていただいて検討を願いたい」との再質問があった。

(S・K)



**補正予算など
9議案を上程**
東温市 (13日・定例) 一般会
計補正予算一億六千二百三十九万円(累計百八億二千七百七十二万円)など
九議案、議員提案二件、意見書三件を上程。二〇〇四年度一般・特別会計などの決算九件を認定した。

主な補正予算は、学校給食センター実施設計委託料二千五百万円▽ため池改修工事補助事業費千二百二十万円▽市有建築物アスベスト調査委託料三百九十三万円―などを計上した。

議員提案では議員の調査研究活動に必要な経費に充てるとして、議員報酬とは別に議員一人に月一万五千円を交付する政務調査費交付条例案を提案した。

**学校関連2施設
石綿の使用報告**
市教委次長 一般質問

東温市 (21日・定例) 大西佳子(無所属) 桂浦善吾(同) 竹村俊一(同) 山内考二(同) 佐藤寿兼(共産) 近藤千枝美(公明) 佐伯

**解体旧川内町舎
石綿の使用なし**
理事者

東温市 (16日・定例) 旧川内町舎の解体に伴うアスベスト(石綿)の調査について、理事者は「設計、解体の各業者と市職員が合同調査した結果、飛散するようなアスベストの使用はなかった」と説明した。

学校給食食材の地産地消について、岡省吾教育長は「主管する農林振興課と協力し、農協など関係団体と協議して、地産地消の方向に持っていきたい」と述べた。

議員の政務調査費が月額一万五千円と算定した基準について提案者の片山益男議員は「県内外の自治体の事例を参考にしたい」と説明した。

強(共産) 白戸寧(無所属) 丸山稔(公明) 渡部伸二(無所属) の十氏が一般質問。

学校施設のアスベスト(石綿)使用実態で岩川孝男市教委次長は「八月の調査で、南吉井小学校の合併浄化槽減室と重信給食センターの排水処理施設で使用されていた」と報告。給食センターは統合給食センターが完成次第撤去するとした。

公共施設の耐震化対策で別府頼男総務部長は「市内の学校は本年度中に耐震診断が終了。補強工事も順次進めている。一時避難所となる集会所などの耐震診断は今後の検討課題」と答弁した。

同市上村のかすみの森公園に生息するジャコウアゲハの食草ウマノズクサを刈らないようにという要望に対し加藤章保健福祉部長は「チョウがまれというわけではないので、推移を当面見守りたい」とした。

教科書採択をめぐる教育委員会の非公開理由を岡省吾教育長は「メールやファックスが大量に送付されるなど異常な環境で、教育委員へ危険が及ぶ可能性があった」と説明した。

人類の行く末に警鐘を鳴らした女性達を思う

楠博幸先生より、レイチェル・カーソンの「沈黙の春」を読むようすすめられたのは、10年前頃だったろうか。「春になっても鳥のさえずりが聞えない」農薬による環境汚染と動物への影響の問題を、世界で初めて取り上げた1962年に書かれた本である。それから約30年後の1996年にコルボーン女史の「奪われし未来」が出版され、内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）が生物に及ぼす影響の深刻さを問題提起した。

しかし、この時も「沈黙の春」と同様に企業や政府関係者から激しい反論にあう。環境ホルモンの一つ、ビスフェノールAが学校給食に使われている食器（ポリカーボネイト）からの溶出していることがわかり、県内でも使用禁止にした市町村も多い。今、日本の20代の男性の精子は40代の男性の半分である。このショッキングなデータに国はあわてて何10億という予算を組んだが、遅きに失した感がある。薬害エイズと同じで情報開示を遅らせた結果が未来を担う子ども達の健全な発育に及ぼす影響は著しい。

このような資料や一般質問を読み返していた時、「追い風、向かい風」という一冊の本が届いた。添え書きに「このほど、これまで書き留めてきたものをまとめ、自分史として上梓いたしました。ご笑覧下されば幸いです。有重由紀子」とあった。愛媛新聞の四季録などを通じて、有重さんを知る人は多いと思うが、機関紙「つぶやき」を発行している「西条くらしの会」の代表である。有重さんは、有吉佐和子さんの「複合汚染」を読み、初めて農薬ホリドールの恐ろしさを知ったことと、1974年に禁止された殺菌剤AF2（豆腐が長持ちし大量生産・遠距離輸送が可能）が食品添加物として認可される前から、一部の学者が、その化学構造から危険性を訴えたにも拘わらず、メーカー・厚生省の癒着により添加物として認可され、外国では、どこも許可していない添加物を9年間食べさせられたことを知り、家族に安全な食べ物を出すには、自分自身が勉強するしかないと思い、20年前に「西条くらしの会」を始めたそうだ。

機関紙「つぶやき」は、環境と平和そして食べ物の大切さに取り組んだ有重由紀子さんの足跡である。発行されるたび送っていただいたが、その内容を通じて有重さんの化学に基づいた分析（大阪女子薬学専門学校、現大阪薬大卒業）信念を持った行動力に感服したものだ。労に対して報われることは少なかったが、彼女は常に10年先、20年先いや100年先を見越して行動を起こしたのである。機関紙「つぶやき」を通じて今を如何に生きるか、何をなすべきかを示唆してくれた。30年間

の市民運動は生半可なものではなかった。愛媛の地の活動であったため、草の根的な広がりにならなかったのは残念であるが、愛媛にこのような女性のいたことを誇りに思う。

以上4人の女性達に思いを馳せたが、権力や企業の圧力にも屈せず勇気を持って環境汚染による影響が野生生物だけでなく、いずれ人間にも及んでくるという警鐘を鳴らしたその偉業に敬服する。

しかし、女性科学者達が声を大にして訴えたのに対し、どうゆう政策が展開されただろう。地球規模で温暖化防止を呼びかけながら、世界のCO₂排出量の4分の1を占める米国は、経済不利益の理由で「京都議定書」から離脱した。国を挙げて地球温暖化防止のため、環境先進国としての模範を示すべきなのに、日本は米国と密接な関係にありながら説得できなかった。この世界に及ぼす影響は大である。因みに、日本企業のCO₂排出量は約8割を企業部門が占め、家庭部門が2割である。日本でもCO₂の排出量は増え続けている。この企業部門の排出量をどのような制度を適用し減らしていくのか、真剣に向き合わなければ次世代どころか未来永劫に負の遺産を残すことになる。世界のリーダー達に人間の心を取り戻して欲しいものである。私達も、自らがその問題を作っていると同時に解決策を持っていることを自覚し、温暖化防止に取り組まなければならない。そして、人が作り出した有害物質の次世代への影響を極力防がなければならない。

さて、東温市が発足して9月21日で1年を迎えました。最初はギクシャクした面もありましたが、ゆるやかに2つの町が合流しはじめ、行政も変わりつつあります。

行政を動かす本当の力は、住民一人ひとりの「点検行動」「まちづくり提案」だと思います。共に考えアイデアを出し合っていく方法がとられるといいですね。

追記

くらしの学習会が井戸端だより50号記念と併せて、自然再生「ジャコウアゲハ」と共にと題して蝶の絵はがきを作った。夏休み中に酒だる村を訪れた子ども達約400人に一枚ずつ進呈した。目を輝かせて「絵はがきと同じ蝶がいたよ」と教えに来る子「ジャコウアゲハよ覚えてね」と私。ことのほかお母さん達が喜んだのには驚いた。彼女達も疲れている。自然の中で子どもと一緒にあって蝶やトンボ・バッタと遊ぶのも必要なのかもしれない。心身ともにリフレッシュして、明日に向かって生きて行って欲しいものである。

(2005年9月21日 記

諸伏静江)

「やっぱり大人は信用できない」と若者達が再度学習することになるとしたら悲し過ぎます。ワンフレーザーポリテックスがお得意の総理ですが、今後は言葉を尽くして皆が納得して痛みを分かち合える様、説明責任を果たして欲しいと思います。

厳しい財政状況のもと、公務員を減らしたのであれば、都市部の国公立病院の閉鎖も考えても良い様に思います。都市部には民間の医療機関があふれています。その様な恵まれた所に取って国公立病院を残す必要は無いと思えます。それより今、島嶼部からフェリーを使って遠く離れた都市まで通っている妊産婦の姿を

目にする時、僻地にこそ総ての診療科の充実した公的病院を創るべきだと考えます。医療の地域格差はあつてはならないと思うからです。小さな政府を目指し無駄遣いを減らすことは賛成ですが採算を度外視してでも一人ひとりの安心と安全を守る為の目配りは忘れて欲しくないのです。

今年十一月には、自民党は改憲に向けての草案をまとめる方針の様です。自民党をぶつ壊すと言いつつ、自身の出身派閥は今や最大派閥として残り、新人議員達は「小泉チルドレン」とか「小泉牧場」とか称され総理直轄となる様で、ますます自民党的な部分が強

化された様にさえ思えます。そんな自民党がどんな草案を提示するのか、じっくり見ていきたいと思つています。

今回の総選挙は、議会制民主主義の手順を全く無視した解散でびつくりしました。憲法を変える時は衆参両院三分の二以上の賛成の後、「国民投票」が決められています。その日が来て、慌てない様見ていきたいと思つています。

これだけの議席数を与えられた今こそ、与党は驕ることなく、景気が上向きと言われながらも自ら命を絶つ人が跡を絶たない現実をしつかり受け止め誠実に、国民一人ひとりを見捨てない政治を行つて欲しいと願

うばかりです。

私があればこれ熱くなつている傍らで、プランターのバセリを食べて黄アゲハの幼虫が育ち、幻想的な羽化の様子を見せてくれました。蛹になつて十二日目、やわらかく光沢のあるハネを広げた瞬間、まわりの景色の総てが止まって彼女(?)にだけスポットライトが当たっている様な気がする位美しいものでした。あの紫色の水玉模様のお美しさは、今も目に焼きついてます。今夏最高に幸せを感じた一日でした。

(K.O.)



雑感

日暮れがずいぶんと早く
なりました。運動会や秋祭
りの準備の音も聞えてしま
す。毎夜虫達の音楽会も盛
んです。穏やかに時が流れ
ています。

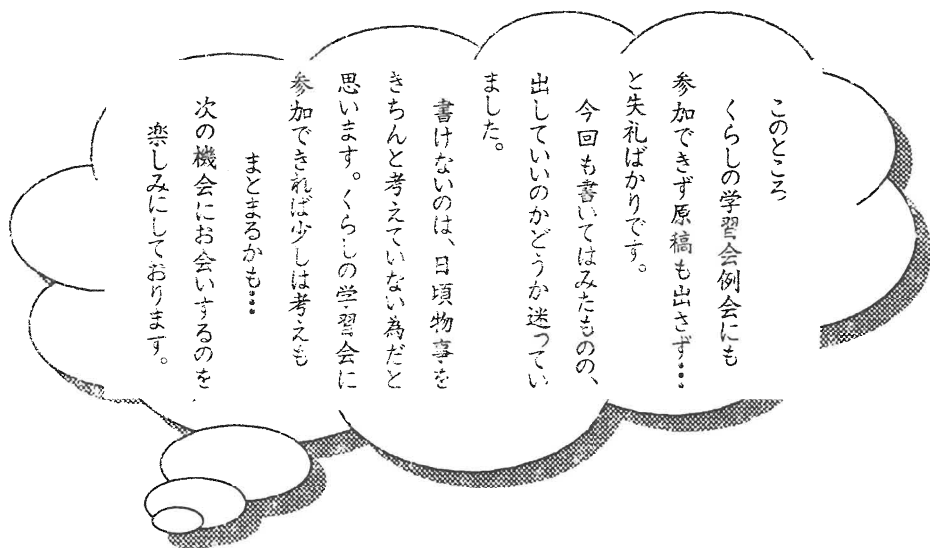
しかし、今年の夏は、アメ
リカ南部を襲ったハリケー
ン、カトリーナや日本各地
にゲリラ豪雨をもたらした
台風十四号など自然災害
の恐さと多さが目立ちまし
た。ニールオリンズでは二週
間以上経った今でも水は完
全には引いていないと言いま
す。超大国、超先進国アメ
リカがこれほどのダメージ
を受けていること自体俄か
には信じられない思いです。

そして今、次のハリケーン、
オフィーリアが東海岸を窺
つていきます。地球温暖化が
すすめば、ますます台風や
ハリケーンが大きく強くな
ると言われています。南極で
は年々気温が上がり、体温
調節機能が充分ではないペ
ンギンのヒナ達が次々に死
んでいると言います。樹氷も
例年にない多さで融けてい
るとも言いますし、今年のオ
ゾンホールの大きさは特別
だとも報じられていました。
つい先日、松山で「今すぐ
できるエコライフ」の講習会
があつたようです。冷房温
度は二八度C以下に、買
物は徒歩か自転車、地
産地消などが語られた様
です。一人ひとりの小さな

努力の積み重ねが大きな成
果をもたらすことは理解で
きます。しかし今は為政者
一人ひとりが危機感を持つ
て、規制をかけてでも温暖
化を止めなくてはならない
時が来ている様な気がしま
す。人間の日々の営みの全て
がなんらかの形で環境に負
担をかけていることを考え
ると、施策の総てが環境と
拘わつていふことを肝に銘じ
て政治活動を行つて欲しい
のです。特に国際間の争いが
最大級の環境破壊に繋が
ることを考えると、国連が
正しく機能することを切望
します。安保理の常任理事
国入りよりも、そちらに情
熱を傾けて欲しいものです。

郵政民営化の是非をたつ

た一つの争点に仕立て行つ
た今回の総選挙では、自公
連立与党は衆議院の三分
の二を超える議席を獲得し
圧勝しました。改憲以外は
総て与党の思い通りになる
議員数です。若い人達が圧
倒的に自民党を支持した
と言われています。ならば彼
等の期待を裏切ることの無
い様、彼等に夢と希望の持
てる世の中を構築して欲し
いと切望します。選挙中は
税調案による増税はしない、
としていたにも拘わらず、早
速二〇〇七年から定率減税
全廃が検討されている様で
す。「減税を廃止するのであ
つて増税ではない」ということ
なのだそうですが、彼等はど
う受け止めるのでしょうか。



9月雑感

今年は私にとってめでたい年なんだろうと思う。5月に長女が挙式、7月に友人の息子さんが結婚されて披露宴に招待され、9月に長女の披露宴、10月は姪のそして11月は甥の結婚式である。めでたいことがこれほど続くのは私にとって珍しいことである。

今年はまだ一人めでたいことが続いている人がいる。小泉首相である。国民の過半数は反対していたと思うのに、イラクへ自衛隊を派遣し今のところ死傷者を出していない。北朝鮮の拉致問題は棚上げなのに、その責任を小泉首相に問いただす風潮がない。国民一人当たりの借金が700万円になったというのに、声高に小泉批判をする国民は少ない。郵政民営化を参議院に否決されたといって衆議院の審議をやり直しせず、即、衆議院を解散する小泉首相に国民の怒りの声は届かない。それどころか、今度の選挙結果は小泉首相を満面の笑顔にした。これだけ幸運に恵まれた人は珍しいだろう。

さて、小泉首相のめでたさはこれからも続くのだろうか？続くことは日本国民にとって、国にとって吉いことなのだろうか？めでたい小泉首相の陰で国民はお目出度い人々になっていないだろうか？“自民党をぶっこわす！”という首相の言葉が選挙向けの言葉だけに終わらないで、日本の政治が少しでも良い方に軌道修正されることを願っている。日本国民にとってめでたい年になるのはいつのことだろう？

(R・D)

【長期外出先よりファックスにて届いた原稿です。】

ペットフードから考えたこと

「うわあ、今回は多いなあ。」金属・ガラスのゴミの回収日、45Lペールのゴミ袋は、ペットフードの空き缶であふれていた。ゴミを増やしてしまった罪の意識を感じていたところ、前ページの新聞記事に接した。ペットフードの空き缶など20年前には見られなかったと。うーん。反省。でも、私が缶のペットフードに手を出した理由を少し言い訳させてもらおう。たかがペットフード、されどペットフード。犬のえさ一つ選ぶのにも、いろいろ道のりがあったのだ。

3年前、子犬を飼い始めた。かわいくてたまらない。フードには、栄養バランスに優れているという高級ブランドの〇〇を選んだ。アメリカ製で包装もおしゃれ。ずっとそのフードを愛用していた。ドライの粒状のものである。ところが、アメリカの食肉業界の実情を書いた本を読んで驚いた。食肉を取り除いた部分や劣悪な肉などは、ペットフード用として利用されると。しかも、肉の処理の仕方もかなり杜撰だという。

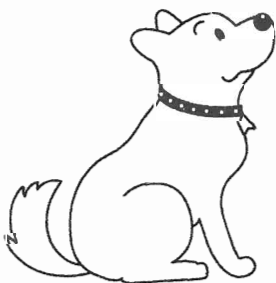
危ないなあ。アメリカ製から即、国産にきりかえた。国産のフードは、アメリカ製に比べて、油っぽくなく軽い感じ。やはり変えてよかったと思った。しかし、しばらく利用しているうちに夏が来た。屋外で飼っているため、暑さで食欲が落ちてしまった。目先の変わったものを買ってみたのが缶のフードとの出会いだ。オーストラリア製とあるから狂牛病の心配はないだろう。喜んでペロリとたいらげたので、こちらもうれしくなり、毎日缶をやることに。そしてゴミ箱は、空き缶の山となっていったのだった。

以上が、缶のフードを使っただが、缶にも気になる点があった。あの、においだ。使ったことのある方はわかると思う。入っている肉も形成肉で、ちょっと不気味なのである。20年前にはなかったものなら、なくてもすむはず。私は決意した。自分で作ってやろうと。

犬が食べられないのは、玉葱などの硫化アリル系の野菜と、いか・たこなど。骨がのどにささらないよう魚や肉はほぐしてやる。濃い味付けや香辛料は控えるなどの点に気をつけてやればいい。人間の食事を作るとき、それら食べられないものを除いて、ごはんなどを加え、たいてやる。たとえば、カレーを作る際、玉葱を除いた材料を別なべでたいてやればいだけだ。栄養的には、人間より蛋白質やカルシウムの割合を多くする。トマトを少し混ぜてやると、おなかの調子がいいみたいだ。人間と違い文句を言わず喜んで食べてくれるのもかわいい。こんな簡単なことをなぜしなかったのだろう。一昔前は、当たり前だったはずなのに。粒のフードも缶もまだ買い置きがある。いざという時はそれを使えばいいが、今後も出来るだけこのやり方を続けていこうと思う。ゴミもゼロである。

ペットの食事に限らず、人の食生活もしかり。食べるだけの状態になった加工食品の氾濫、スーパーのお惣菜コーナーの充実には異様なものを感じる。確かに便利ではあるが、それで心の充足、満足感までは得にくいように思う。少しの手間を借しむことによって、人としての感性まで失われるような気がする。暮らしの中で、手間やわずらわしさを受け止め、自分にできることをささやかにやっていく。その中にも小さな幸せや楽しみは見つかるはずだ。私たち一人一人がほんの少し暮らし方を見つめ直すことが、ゴミの減量につながるのではないかと思う。ペットフードから自戒も込めていろいろなことを考えた。最後に、最近読んだ本で関連のある書物を紹介して終わろうと思う。

『地球 買いモノ白書』 どこからどこへ研究会
『いのちの食卓』 辰巳芳子



(E. K)

野菜くず、パック・おむつ

暮らし「出る家庭ごみ」

家庭から出るごみの内容を20年以上にわたって分析した京都市の調査で、便利さと快適さを追求し続けてきた私たちのライフスタイルの変化が浮き彫りになりました。結果によると、最も大幅に減ったのは台所の「生ごみ」。それを埋め合わせるように加工食品の包装ごみや、手をつけずに捨てられた食べ物が増えていました。通信販売の普及を反映してダイレクトメールやPR誌も近年多くなり、20年前はほとんど見られなかったペット用品や大人用の紙おむつも目立つようになっています。

(永井靖二)

20年超 京都市調査

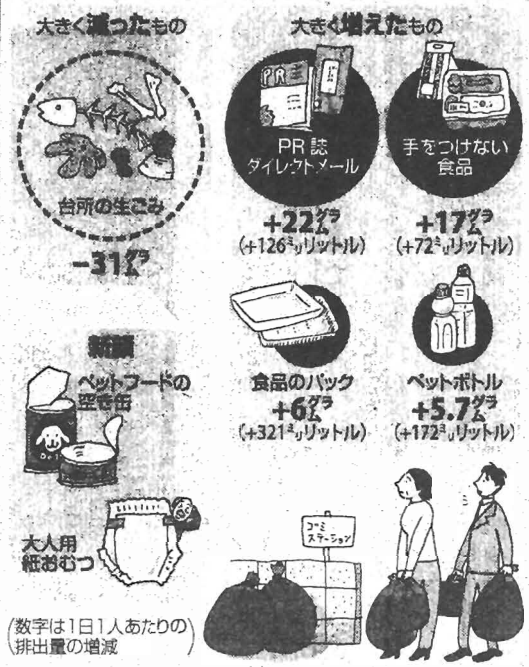
● 増える容積

京都市は80年から、昔ながらの町家が並ぶ市街地の中心部、一戸建ての多い市北部、中高層の集合住宅が多い市南部でそれぞれ対象地区を決め、年一回(10月)の調査を行っています。

11月、半月ほどの期間に、合わせて約200世帯から出されるごみの内容を詳しく調べています。

対象家庭の人数や年齢構成を聞き取ってきた。1世帯の平均人数は83年の3.7人から03年は2.9人になり、少子化と核家族化が進んでいることを裏付けた。1人が1日に出すごみの

家庭から出るごみの変化(1983年と2003年の比較)



使い捨て型化 急速に

重さは、83年に49.5%増だったのが97年には56.7%増。この間、少しずつ増えたが、近年は減少傾向。03年は48.4%増で、20年前より少なくなりました。

これを容積で見ると様子が変わる。83年は1人当たり1日4.3リットルだったが、03年は4.5リットルと増えた。軽くて、かさばるごみの比率が上がっていることがうかがえる。

● 加工品が増加

20年間で最も減少したのは台所の生ごみだ。83年に1日1人あたり21.0%以上あったのが、03年には31%減っていた。

代わりに20年間で増えていたのは、食品の包装パックだ。

グ(6%増、32.1リットル増)、手をつけないままの食品(17%増、72リットル増)、ペットボトル(5.7%増、17.2リットル増)。いずれも、重さに比べて容積が大きいのが特徴だ。

家庭で生の素材から料理する機会が減り、皮のついた果物を食べるより出来合いのデザートやジュースを好む傾向が反映された、とみられる。食べるだけの状態になった加工食品を買い込み、時には消費期限を過ぎたので食べないまま捨てる—そんな今どきの消費パターンが浮かび上がる。

調査に企画段階から加わり、18年にわたって担当した京都市環境局の中村一夫さんは「モノ作りから消費まで、我々の生活が『使い捨て型』に急速に移っていることを痛感した。自分たちの暮らしのありようを一度振り返ってみるべきではないか」と話す。

● 環境に配慮も

簡便化、使い捨て製品類は、食品だけではなく、紙おむつ(20%増、76リットル増)やティッシュペーパー(5.4%増、46リットル増)などにもその傾向がうかがえる。特に紙おむつは、83年になかった大



家庭ごみの調査風景。手作業で仕分けして調べる。01年10月、京都市内

行ってみた中国

8月19日昼頃松山を發ち、直行便で上海へ。所要時間1時間半。国内旅行なみの手軽さである。今回は夫の南京国際学会参加に随行したのである。学会に参加する夫の教え子で私の日本語の教え子でもある東北林業大学（ハルビン）の先生が学会の後ハルビン・北京に招待してくれたので、声をかけてくれるうちが華と初めて中国に足を踏み入れる事にしたのである。ただ、最近の日中関係に鑑み、直前まで本に行けるのかどうか心配していた。小泉さんの靖国不参拝の恩恵か？

上海空港からはバスで1時間、人口1600万の上海の街を見ながら駅へ。ニューヨークを思わせる高層ビル群、洗濯物を突き出した棒に干している庶民のアパート、壊れかけた家、高速道路、平屋の店が密集したぬかるんだ小路、高級車、自転車、大移動を思わせる荷物を持った人々・・・何ともアンバランスな眺め。どちらも今の上海だ。駅前の広場は、人・人・人、人に酔ってしまうほど。鉄道は、始発駅でも発車予定時刻の3分前しか開門しないので、全員乗り終わった時は予定を20分も過ぎるのは必定だが、こんなものだと思えば誰も文句は言わない。時刻表に締めつけられて事故が起きたどこかの国とは思いが違うようだ。中国の電車はドイツの規格を取り入れたということで線路の幅が広く、車両もゆったりしており揺れが少ない。一応駅に着く前に車内放送があるが、静かに駅に止まり、静かに駅を出発する。駅名もよく見ないと確認できない。3時間余りで南京へ。しかし南京駅が改築中で、宿泊予定のホテルは駅のすぐ近くだというのに、そこを通り過ぎて、南京西駅というところでおろされてしまった。



結局またタクシーに乗って30分でホテルへ。ホテルに着いたのは夜の9時半頃だった。簡単に足を踏み入れた中国だが、国内の移動は実に大変ではあった。

次の朝、ホテルの近くを散策した。南京駅は、ホテルから歩いて2分。出来れば素晴らしく立派なものになる。駅前整備も敷地が広いからか余裕がある。植栽にもよく配慮されている。駅の前は玄武湖で、木の散歩道が湖の周りについている。魚を釣っている人、散歩している老夫婦、トランプをしている人、ポーズをとって結婚写真を撮ってもらっている人、ボートに興じる人、色々だ。玄武湖公園にも入ってみる。広いので、園内を1周する車に乗る。

街の中心へも歩いて行って、昼食は餃子屋に入る。餃子の中身が色々あって、指定して注文するのだが、漢字から中身を想像して注文した結果、想像通りのものもそうでないものもあった。それでも漢字は便利だ。バスに乗ってみた。普通1元（15円）、エアコン付きなら2元、次から次へと来て便利な交通手段だ。長江（揚子江）の偉大さを見たくて、近くまでバスに乗り歩く。川と言うよりは海だ。大きな船が停泊している。長江大橋を歩くとその大きさを実感できるとガイドブックにあったが、修理中で出来なかった。中国は今至る所で、建物、道路などの改築、新築の工事中で、世界中の鉄鋼が中国に集められているというのが実感できる。24時間工事が行われているので、前の日にあった建物が、次の朝には無くなっているというのもよくあることで、私自身も経験した。

南京は、プラタナスの並木が素晴ら

しい。それも、自然に大きくなったのではなくて、どの木も同じ様な形で(U字型)のびている。纏足ならず纏枝したのだろう。車の運転は極めて恐ろしい。歩行者優先の意識はないようで、危ない光景をよく見た。車同士でもちょっとでもひるんだ方が負けだ。故に交通事故も多い。立派な道路に建物・設備など、ハード面の整備は素晴らしいが、それを運用する人、ソフト面がそれについていけない感じだ。スーパーでもレジでの割り込みはしょっちゅう、怒っても引き下がらない、逆走してくる車、信号を守らない人と車、自転車専用道路を走る車、傍若無人に広い道路を横切る自転車など・・課題は多い。しかし、街自体の活気・エネルギーを感じた。

孫文のお墓中山陵を見学。立派だ。孫文は字を中山といい、今でも改草の父として慕われている。北京で亡くなった孫文を、中華民国ゆかりの地である南京に一山使って葬ったわけだが、民族・民生・民権の三民主義を掲げた彼が本当にこのような立派なお墓を喜ぶだろうか？と、ふと疑問に思った。明の太祖洪武帝(朱元璋)のお墓明孝陵も見学。世界遺産とあるが疑わしい。清朝に破壊されて再建するも屋根の部分は再建されなかったらしい。清朝は民族の違いからか、明朝のものをかなり破壊したということは色々なところで見て取れた。夫子廟は4世紀創建の孔子廟で、昔科挙試験を受ける人達がお参りに来たとか。今も受験生が来るという。裏手に発展した歓楽街は下町情緒溢れる「南京の浅草」と言われているとか。建築中の足場に竹を使っているのには驚いた。日本では余り利用しないので、竹が異常繁殖して困っているという話を聞くが、高層ビルは別

として、こんな竹の利用もいいのではないか。ところで、中国ではタクシーも庶民の足となっている。初乗り7円で目的地まで確実に運んでくれるのでよく利用されている。中国から来た留学生が中国のつもりで日本のタクシーに乗り、余りの高さにびっくりしたという話はよく聞く。

国際学会には、夫達が学会参加の間随行者のツアーが必ず用意されている。2年前のルーマニアの学会でも一緒だったアメリカ、カナダの夫人と再会、共に参加。今回はオーストラリアの先生が両親を連れてきていたため、その両親も参加、他にフィンランド2人、ルーマニア4人、イラン1人。英語の通訳として南京林業大学の助教授(女性)が同行、素晴らしいガイド振りだった。旧総督府、ここは太平天国の革命政府、孫文の中華民国臨時政府、蒋介石の国民政府の中心があったところ、3人ゆかりの建物が集まっている。庭もすばらしい。南京市民族博物館では切り絵の名人の実演、米粒等小さい物に絵を書く芸術、人形劇などが面白かった。2度目のツアーは南京から100Km程離れた揚州へ行った。ここでは瘦西湖公園など、2ヶ所の公園を見学。湖と自然の石を使った造形、建物、四季を意識した庭などが景色の中で解け合っただけで美しかった。船にも乗って、操縦している人の中国の歌を聴いた。大明寺は、鑑真ゆかりの寺、日本人の旅行者も多く訪れるのか、途中の道しるべに平仮名を見つけた。

学会最終日の前日いつもバンケットと言って正式な晩餐会がある。この日は、身だしなみを整え、全員参加する。いくつかのテーブルに分かれて盛り上がる。私達のテーブルはルーマニアの大学の先生、中国の大学の先生と一緒に

だった。共通語は英語だから、国際学会に参加するといつももう少し英語が出来たらと思うが、帰ったらすぐ忘れてしまうのでいつまで経っても上達しない。ところで南京の名物はアヒル料理、豆腐料理、焼き餃子、どれもおいしい。中国のワイン（Great wall 銘柄）も地ビールもおいしかった。

最終日お別れランチパーティーには出ないで早朝ホテルを出て、南京空港からハルビンへ。空港へは東北林業大学の車が迎えに来ていた。中国では普通大学がホテルを経営して一般の人も泊まれる。ハルビンでは、大学のホテルに宿泊。一般のホテルと比べ遜色ない。直ぐに昼食をここのレストランで。招待してくれた先生の奥さんに3年振りですれ会って抱き合った。彼女も私の学生だった。今や大学の専任日本語教師になっている。ハルビンビールは中国で一番古いビール。料理も南京とはまた違い水餃子・ピーナツ料理、魚料理がおいしかった。午後夫は学長などの要人と会い、私は奥さんの案内で大学の構内を案内してもらった。日本語教室、使用教材なども見せてもらったが、余り充実していないようだ。図書館は実に立派。香港の富豪がどこの大学にも実験棟などを寄付しているとかで、南京でもここでも名前入り建物を見かけた。大学も建築ラッシュ、中に飯場があって24時間工事しているようだ。特に夏休みの今はかき入れ時なのだろう。中国の大学は全寮制、構内に寮も、スーパーも、銀行もあって、何でも間に合うとか。構内の広さ、大きさ、緑の多さには驚く。競技場があって、不動産屋の運動会をしていた。外部にも大学の施設を貸すのだそうだ。使用料は取るらしい。学生がいたところで勉強しているのには驚いた。新年度が間

もなく始まるためか、新入生歓迎の垂れ幕もよく見かける。

次の日、夫は大学院生に講演、私は奥さんと息子さんの案内で街の見物に。先ず、シベリア虎の保護園へ。サファリパークのようにこちらが檻のようなバスに乗って虎の生息地を回るのだが、途中生きた鶏で、虎を間近に集めて、それを投げるとというのがあったが、こういうのに弱い私はずっと目をふさいでいた。餌を勝ち取った虎は、一頭だけでそれを平らげるようだ。決して他の虎にやらない。自然の世界は厳しい。弱い虎はどうやって生き残っていくのか。

ハルビンは、ロシアの影響を受けた建物が残っている。ロシア正教のソフィア教会、中央大街のロシアの建物群、ここは歩行者天国になっているので安心して歩ける。音楽に合わせて水が出る噴水など南京とは全く違った感じを受ける。ここのスーパーで、よく聞く扉のないトイレに遭遇。恥ずかしくないのか平気で用を足している女性に唾然。幸い私の所は押さえていないと開いてしまうが扉があったので助かった。ハルビンは冬が美しいらしい。—20度ぐらいで厳しい冬だが、雪祭りは札幌の比ではないらしい。また冬に是非来てみたい。

午後は、彼女の家に向かった。素晴らしく広いお宅。息子の部屋も10畳以上あって広々している。勉強の課題が山のように積まれている。息子が色々話をしてくれた。まだ忘れていない日本語で。日本でいじめられた話、切れて暴力をふるった話、中学に入って名前が知れ渡っていたこと、陸上部での楽しい練習、友達と作った洞窟、魚釣り、タケノコ堀、山の上から見たきれいな夕日の話。現在、中国の中学

生で一生を左右する高校受験が近い。中国の勉強は覚えることばかりで、将来余り役に立つとは思えないがしなければならない。もし日本に行った経験がなければこんな勉強ばかりで自分は駄目になっていたかもしれない。いじめられた経験があっても、日本が好き、日本で経験したことが良かったと言ってくれたことが何より嬉しかった。卒で良かった。彼と日本での再会を約束した。

ハルビンを後にして、先生と共に北京へ。北京空港へは、夫のもう一人の教え子の教え子が車で迎えに来てくれた。先生の先生は先生だということで色々案内してくれた。人民大会堂に勤めているもう一人の教え子の案内で普通の見学者では見られない所も見せてもらった。中国の省はそれぞれに会議室を持っていて、その内装、調度、壁画などがそれぞれ趣向を凝らし素晴らしい。大会議場では、壇上の机に胡锦涛の名札を見た。中にある劇場では抗日勝利 60 年を記念して日本軍からの解放の劇をしていた。これも反日教育の一環か。人民大会堂の屋上から見る天安門広場及び周辺の眺めは最高だった。その後、天壇公園へ。明代に天地を祀る為に建設。天を表す円形と地を表す四方形が組み合わさって出来ている。広い、大きい、歴史の重みがある。晩ご飯は創業 1446 年の店で有名な北京ダック。直ぐ近くでコックがダックを切り分けてサービスしてくれる。それを餃子の皮を両面焼いたようなものの上に載せ、キュウリ、白髪ネギと共に、みそをつけて巻いて食べる。おいしい。夜は、有名な王府井を歩き、天安門広場に出てみる。夜だというのにすごい人ばかり。

次の日は、故宮博物館へ。とても半

日では回りきれない。隅々まで見るには 2・3 日かかるかもしれない。映画「ラストエンペラー」の 1 シーンを思い出す太和殿、西太后が垂簾政治を行ったという養心殿・・・敷地の広さ、建物の大きさ、調度の豪華さ、財宝はほとんど台湾に持って行かれたというが、それでもまだいっぱい残っている珍宝。どれをとってもすごい。中国の力をひしひしと感じる。2 時半頃出て、今度は八達嶺という万里の長城へ歩いて上る。あいにく雷が鳴り出し激しい雨に。あとちょっとで一番高いところというところで命からがら引き返してきた。近くで 2 ヶ所雷が落ちた。怖かった。しかし、万里の長城に来るという夢が実現した喜びで一杯だった。国を征服しては奴隷にした人々を働かせて作ったものだというが、スケールの大きさに感嘆！

中国の歴史は古い。名所旧跡も数限りない。その規模はどれもとてつもなく大きい。この国を軽く見てはいけない。底力は計り知れない。これだけ広大な土地と人口を持つ国に対して、日本は今後いかに独自の道をさぐるべきか。緻密さで、アイデアで、環境先進国として、平和大国として、調整役として、経済面でも外交面でも生きて行くしかないのではないかと思った。

2008 年にオリンピックを迎える北京の運転は、他の都市に比べるとおとなしいように思った。交通ルールも多少守れているように感じた。北京が手本となって、ソフト面の充実が国中に広がったら中国はもっと素晴らしい国になるに違いない。貧富の格差、都市と農村の格差も課題克服の一つだろうが。

(T・H)



読者からのたより

涼風献上

- 神戸端たより 有難くお読みいただき
- 読者の陰謀書、早速使用させていただきます。ここに幸な7年前、トコも時とすくないがーと思つておいたが、ここ2、3年前から増えて来たように思います。庭先にも来るようにおいた
- 下水問題 下水の中水化利用は、上記地域の義務で対(中、下流域の協力)ある場合でこの問題を提起されたが、説明が得られなかったことを思い出した(15年位前のこと)
- 議会「公用バス」…特勤規程は…?
「男女共進社会、思想・意識改革の由題」
です。また、対向かかあるのでしょうか
- 郵政政局の力がい 障害者法や、高齢者医療法が改善されていず — それも一級身障者の方、所得に応じた 限定負担は當然だと思つていす — 然し社会福祉庁や道路公団などの公費乱用を取り締りてからの事だと思つていす。→テマ互お。
- ★ 陰謀書、夏本番の中、快自筆下さい

今後の予定

・10月例会

10月4日 10:00~林宅

・12月初め頃出合い塾

イラン人家族

編集後記

蜘蛛の巣にかかった銀杏の葉がゆれ、風が心地良く感じられる頃となりました。

夏のお疲れはとれましたでしょうか。

本日の国会では、小泉総理の所信表明演説。こちらはまだまだ夏の続きがありそうですね。

今回の51号、メンバーごとの投稿ありがとうございました。編集者として、真っ先に原稿を読ませていただく恩典に浴しながら、楽しい時間を持つことが出来ました。

(S・K)

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会

01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com